

2021年3月期通期

(2020年4月～2021年3月)

決算説明資料

2021年5月11日 (火)

 東洋合成工業株式会社

1. 2021年3月期 決算概要

2. 2021年3月期 事業概況

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. 2022年3月期の業績見通し

1. 2021年3月期 決算概要

2. 2021年3月期 事業概況

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. 2022年3月期の業績見通し

2021年3月期 通期業績概要

- 半導体・電子材料の旺盛な需要及び先端半導体への投資拡大により、売上高・利益全て、過去最高を更新。業績予想比でも当期純利益は42%超過。
- 売上高は27,164百万円（前期比+2,708百万円、+11%）
- 利益面は 営業利益2,939百万円（同+754百万円、+35%）
 経常利益2,982百万円（同+920百万円、+45%）
 当期純利益2,345百万円（同+493百万円、+27%）

(百万円)	前期 実績値	当期 業績予想値	当期 実績値	前期比		業績予想比	
				増減額	増減率	増減額	達成率
売上高	24,455	26,000	27,164	+2,708	+11.1%	+1,164	104%
営業利益	2,184	2,600	2,939	+754	+34.6%	+339	113%
経常利益	2,061	2,500	2,982	+920	+44.6%	+482	119%
当期純利益	1,852	1,650	2,345	+493	+26.6%	+695	142%
1株当たり当期純利益	233.43	207.89	295.57				
1株当たり年間配当金	20.00	20.00	20.00				
為替レート (USD)	¥108/\$	¥105/\$	¥110/\$				

2021年3月期 通期業績のポイント

■売上高

- ✓ 27,164百万円（前期比+2,708百万円、+11%）
- ✓ 感光材セグメント：PAG、Polymerなどの先端製品が増加。
化成品セグメント：電子材料が増加、香料関連製品も堅調推移。
ロジスティック（ケミカルタンクターミナル）事業は、上期に溶剤需要の減退により荷動きが減少したが、現在は回復。

■営業利益

- ✓ 2,939百万円（同+754百万円、+35%）
- ✓ 感光材の生産能力増強に伴う労務費（+329百万円）、償却費（+128百万円）等を吸収し増益。
- ✓ 全社的な高付加価値製品の販売拡大により、工場の稼働率上昇。

■経常利益

- ✓ 2,982百万円（同+920百万円、+45%）
- ✓ 受取保険金（+66百万円）、為替差益（+49百万円）の計上により営業外利益が増加。前期発生した為替評価損が当期は発生なし（56百万円改善）。

■当期純利益

- ✓ 2,345百万円（同+493百万円、+27%）
- ✓ 前期は繰延税金資産の計上が発生。
- ✓ 当期は感光材の新製造棟建設で法人税の税額控除を受け、法人税等が減少。

営業利益 前期比増減要因

- 販売や高付加価値品の増加による利益増により、成長投資の固定費増を吸収し、増益。

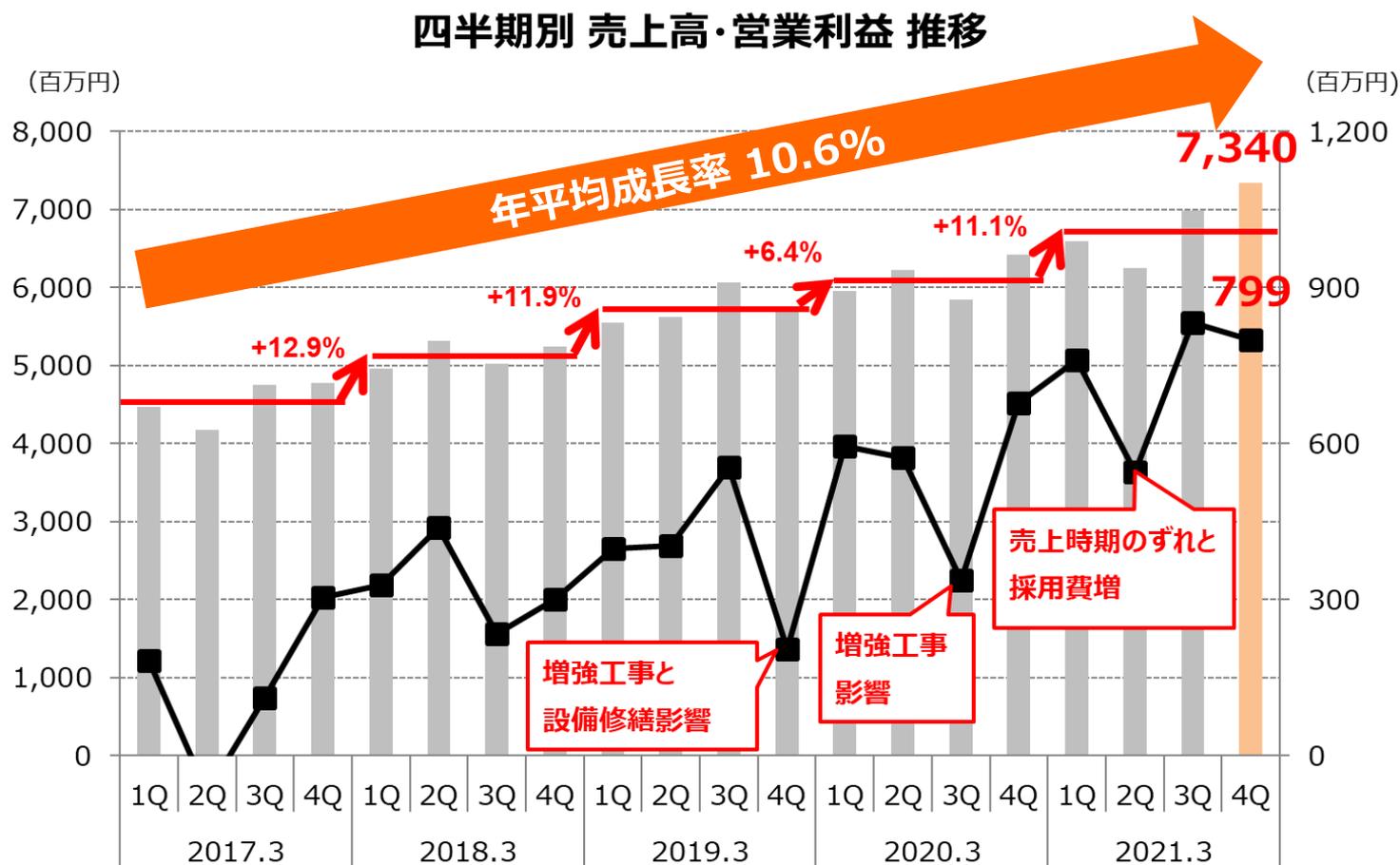
生産能力増強に伴う先行費用等の増加
(償却費、保守修繕費、人件費、廃棄損)

(百万円)



四半期別 売上高・営業利益推移

- 第4四半期の売上高は7,340百万円（前年同期比+921百万円、+14%）、営業利益は799百万円（同+120百万円、+18%）と過去最高水準を継続。
- 売上は年平均成長率 10.6%、営業利益は年平均成長率 53.7%で着実に成長。



2021年3月期 通期 損益計算書

- 売上高は、27,164百万円（前期比+2,708百万円、+11%）に対して、売上原価が+9%の増加に留まり売上総利益は6,209百万円（同+946百万円、+18%）の増益。
- 同様に販売管理費が+6%の増加に留まり、営業利益は2,939百万円（同+754百万円、+35%）の増益。

(百万円)	2020.3期	2021.3期	増減額	増減率
売上高	24,455	27,164	+2,708	+11%
売上原価	19,192	20,954	+1,761	+9%
売上総利益	5,262	6,209	+946	+18%
販売管理費	3,078	3,270	+192	+6%
営業利益	2,184	2,939	+754	+35%
営業外収益	94	188	+94	2倍
営業外費用	217	145	△71	△33%
経常利益	2,061	2,982	+920	+45%
特別損益	△48	△36	+11	+24%
税引前当期純利益	2,013	2,945	+932	+46%
法人税等合計	160	599	+439	2.7倍
当期純利益	1,852	2,345	+493	+27%

[売上総利益 +215]
売上総利益率が1.4pt改善

[営業外収益 +94]
受取保険金 66、
為替差益 49

← 前期、繰延税金資産の計上有

2021年3月期 通期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF：4,419百万円（+956百万円、+28%） 販売拡大による利益増、及び運転資金改善により、営業CF拡大。
- 投資CF：△5,688百万円 感光材設備増強投資の実行により支出増加。
- 財務CF：1,472百万円 設備投資資金の確保。

	2020.3期	2021.3期	増減額
営業活動によるCF	3,463	4,419	+956
税金等調整前純利益	2,013	2,945	+932
減価償却費	2,172	2,311	+138
売掛債権の増減額（+は減少）	△339	△732	△392
棚卸資産の増減額（+は減少）	△197	36	+233
仕入債務の増減額（+は増加）	△94	470	+564
その他	△90	△611	△520
投資活動によるCF	△5,179	△5,688	△509
フリー・キャッシュフロー	△1,715	△1,268	+447
財務活動によるCF	△80	1,472	+1,553
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△33	7	+41
現金及び現金同等物の増減	△1,829	211	+2,041
現金及び現金同等物の期末残高	3,170	3,382	+211

← 運転資金を改善

[投資CF △5,688]
感光材の生産能力増強投資
を実施

2021年3月期 通期 貸借対照表

- 感光材の設備投資により、有形固定資産+2,795百万円、有利子負債は+1,799百万円増加。
一方、株主資本は当期純利益の増加により、2,186百万円の増加。自己資本比率29.4%（+2.4pt）。
- 今後順次、投資設備の稼働率向上により財務健全化を図っていく。

(百万円)	2020.3末	2021.3末	増減額
流動資産	15,503	16,998	+1,495
現金預金	3,582	3,794	+211
売上債権	4,654	5,386	+732
棚卸資産	7,019	6,983	△36
その他	246	833	+587
固定資産	23,627	26,520	+2,892
有形固定資産	22,112	24,908	+2,795
無形固定資産	407	523	+116
投資・その他	1,107	1,088	△18
資産合計	39,130	43,518	+4,388
負債	28,561	30,727	+2,166
仕入債務	3,000	3,470	+470
有利子負債	18,188	19,987	+1,799
その他	7,372	7,269	△102
純資産	10,569	12,790	+2,221
株主資本	10,563	12,750	+2,186
評価・換算差額等	5	40	+34
負債・純資産合計	39,130	43,518	+4,388

[有形固定資産+2,795]
[有利子負債+1,799]
感光材の設備能力増強投資
により増加

[自己資本比率]
29.4%（前期末比+2.4pt）

1. 2021年3月期 決算概要

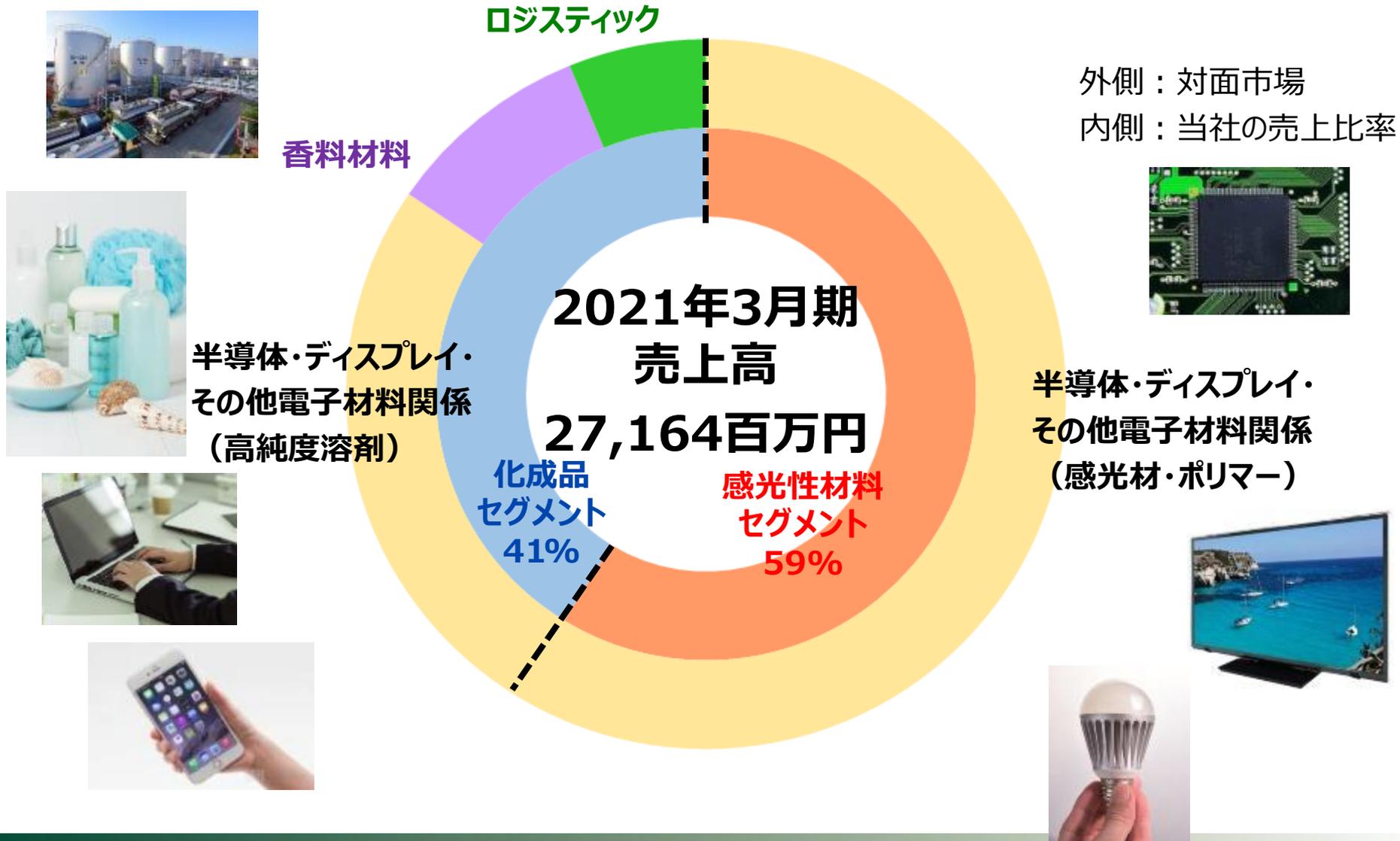
2. 2021年3月期 事業概況

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. 2022年3月期の業績見通し

事業ポートフォリオ

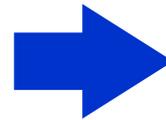
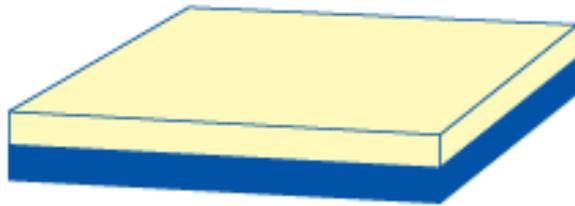
当社売上の8割が、半導体・ディスプレイ・その他電子材料関係。



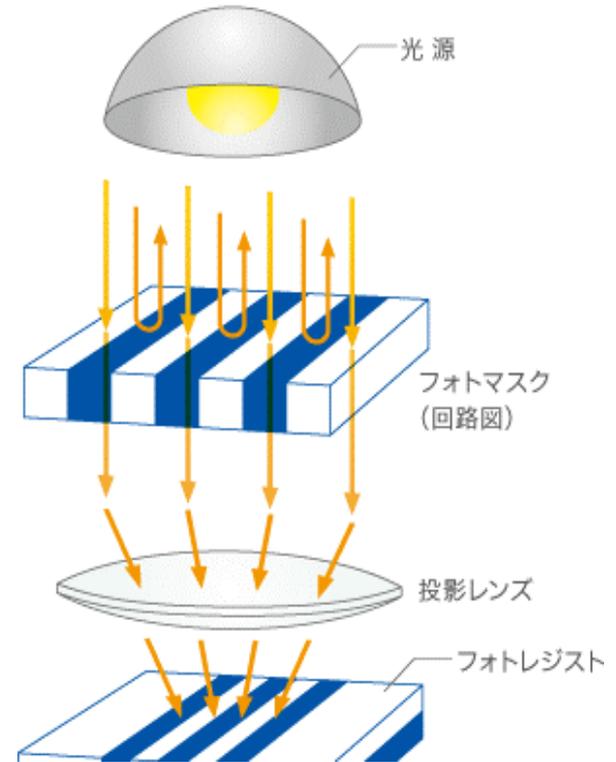
半導体やディスプレイの配線の作り方

- ディスプレイのきれいさ = 細かさ
- 演算装置/メモリ (半導体) の性能・容量 = 細かさ

1. 基板に光に反応する薬剤を薄く均一に塗る

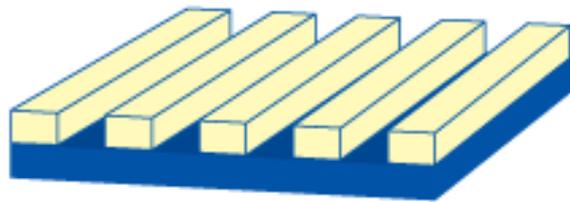


2. 光を回路図とレンズを介して照射 (露光) する

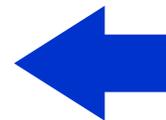


3. 光を照射 (露光) した部分だけ化学変化を起こす

4. 現像液を用いて現像する



nm(ナノメートル)の配線が実現



フォトレジストの中身

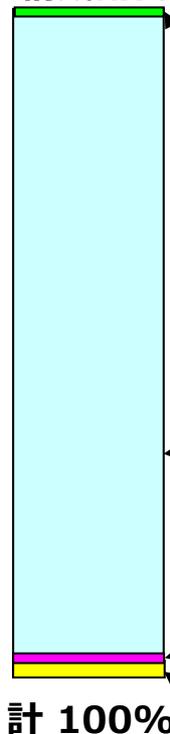
- 当社は、半導体・FPDの製造に使われるキーマテリアルを製造



フォトレジスト（液体）

※レジストメーカーにて調合。

一般的な
フォトレジストの
構成割合



添加剤（界面活性剤 etc.）

高純度溶剤（PGMEA, EL etc.）

※化成品事業の製品

感光材

PAG: Photo Acid Generator（光酸発生剤）

PAC: Photo Active Compound

ポリマーに対して数% ~ 10数%

ポリマー（レジスト樹脂、ベースポリマー）

数% ~ 10数%

当社製品

感光性材料・高純度溶剤のサプライチェーン

- 半導体性能を決定づける必須材料である感光材をグローバルに供給
- 日常の中で、半導体の使われる場面の増加に伴い、感光材の販売量も増加見込み



当社の電子材料向け製品とトレンド

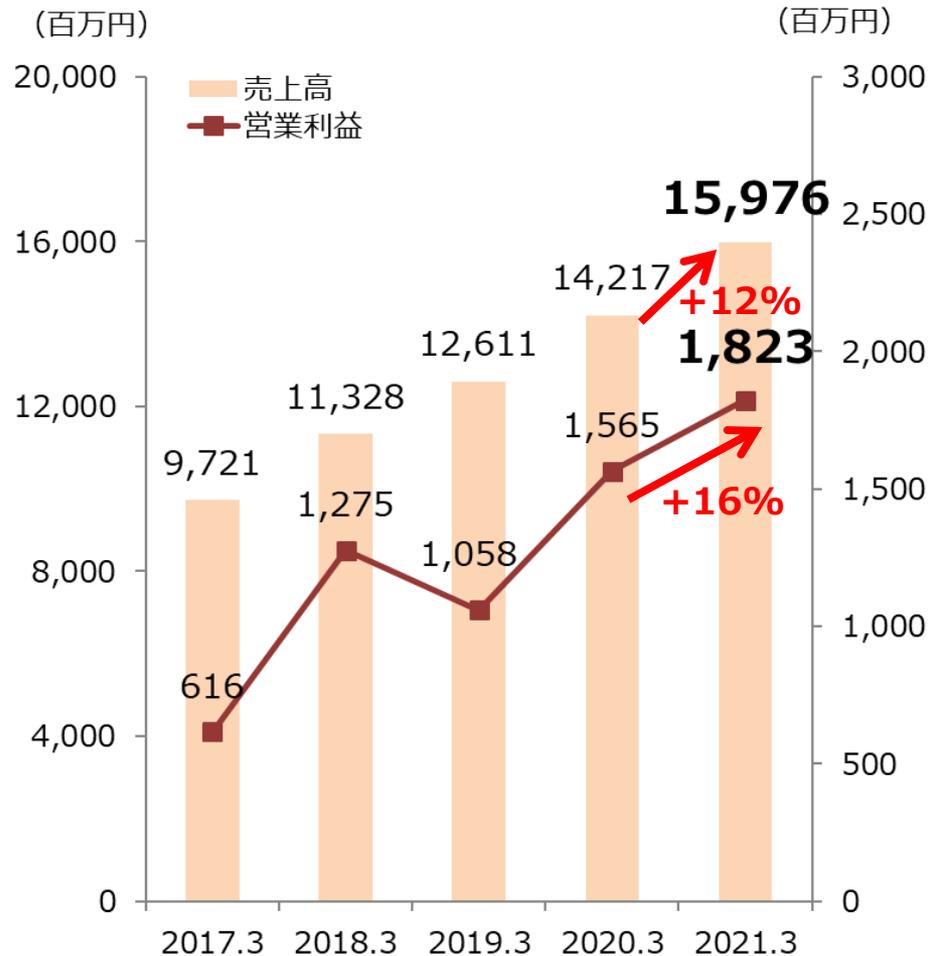
- 半導体の微細化が進み、EUVが技術開発の中心に。
- 2021.3期は、ArF用途、EUV用途感光材の需要拡大。
- 引き続き全世代の感光材の品質を向上し、製品ラインナップの更なる拡充を図る。

■ = 調整局面
■ = 需要拡大

	FPDパネル用		半導体用									
光源	g + h + i 線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF 液浸	ArF DP	ArF MP	EUV		
ノード	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~7nm	~5nm	~2nm	
用途	テレビ用、 一般用	中小型 パネル	IGBT、LCDドライバ、 LED		DRAM/NANDメモリ 需要拡大				次世代DRAM テスト生産			
		スマホなど	後工程用パッケージ材料 CMOSセンサー		先端ロジックLSI 需要拡大				次世代ロジックLSI EUV生産拡大			
市場	需給ひっ迫	中国パネル 需要拡大	緩やかに 拡大	緩やかに 拡大	緩やかに 拡大	横ばい	量産拡大 半導体設備投資拡大		半導体設備投資 加速		開発中	
当社製品	感光材 (PAC) 高純度溶剤				光酸発生剤 (PAG) Polymer 高純度溶剤							

感光性材料セグメント

売上高・営業利益



売上高：15,976百万円

(前期比+1,759百万円、+12%)

- 先端半導体(EUV、ArF)向け感光材の高い需要により販売が増加。

営業利益：1,823百万円

(同+257百万円、+16%)

- 先端領域製品の増販により、設備増強に伴う労務費、減価償却費の増加を吸収し増益。

フォトレジストの中身

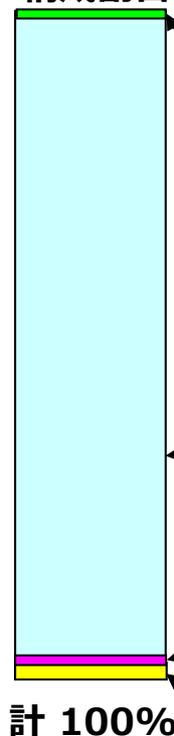
- 当社は、半導体・FPDの製造に使われるキーマテリアルを製造



フォトレジスト（液体）

※レジストメーカーにて調合。

一般的な
フォトレジストの
構成割合



添加剤（界面活性剤 etc.）

高純度溶剤（各種EL溶剤）

※化成品事業の製品

感光材

PAG: Photo Acid Generator（光酸発生剤）

PAC: Photo Active Compound

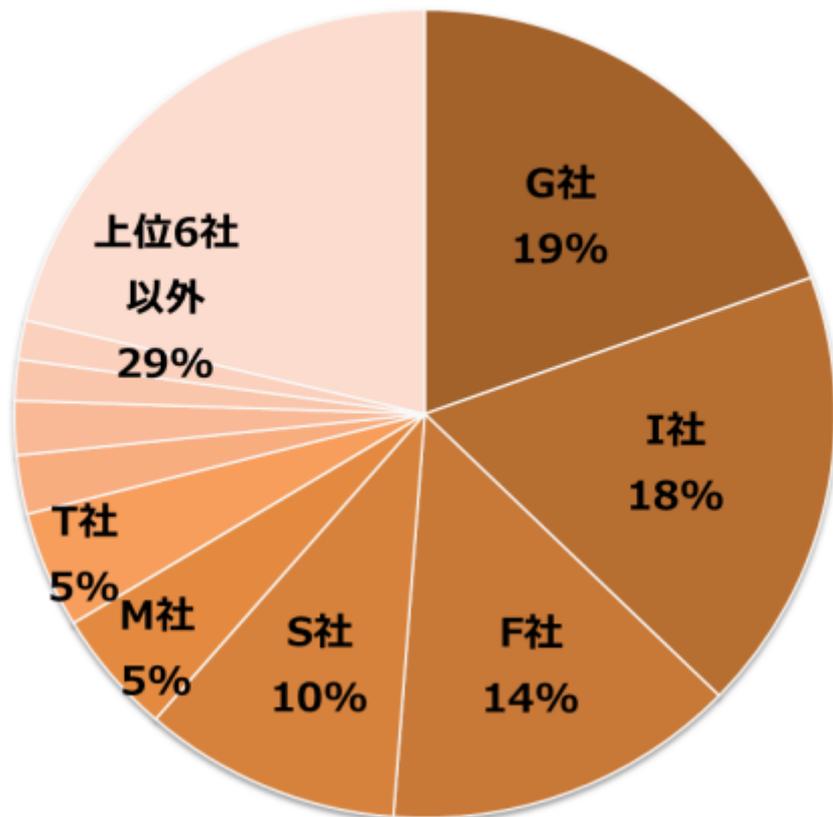
ポリマーに対して数% ~ 10数%

ポリマー（レジスト樹脂、ベースポリマー）

数% ~ 10数%

当社製品

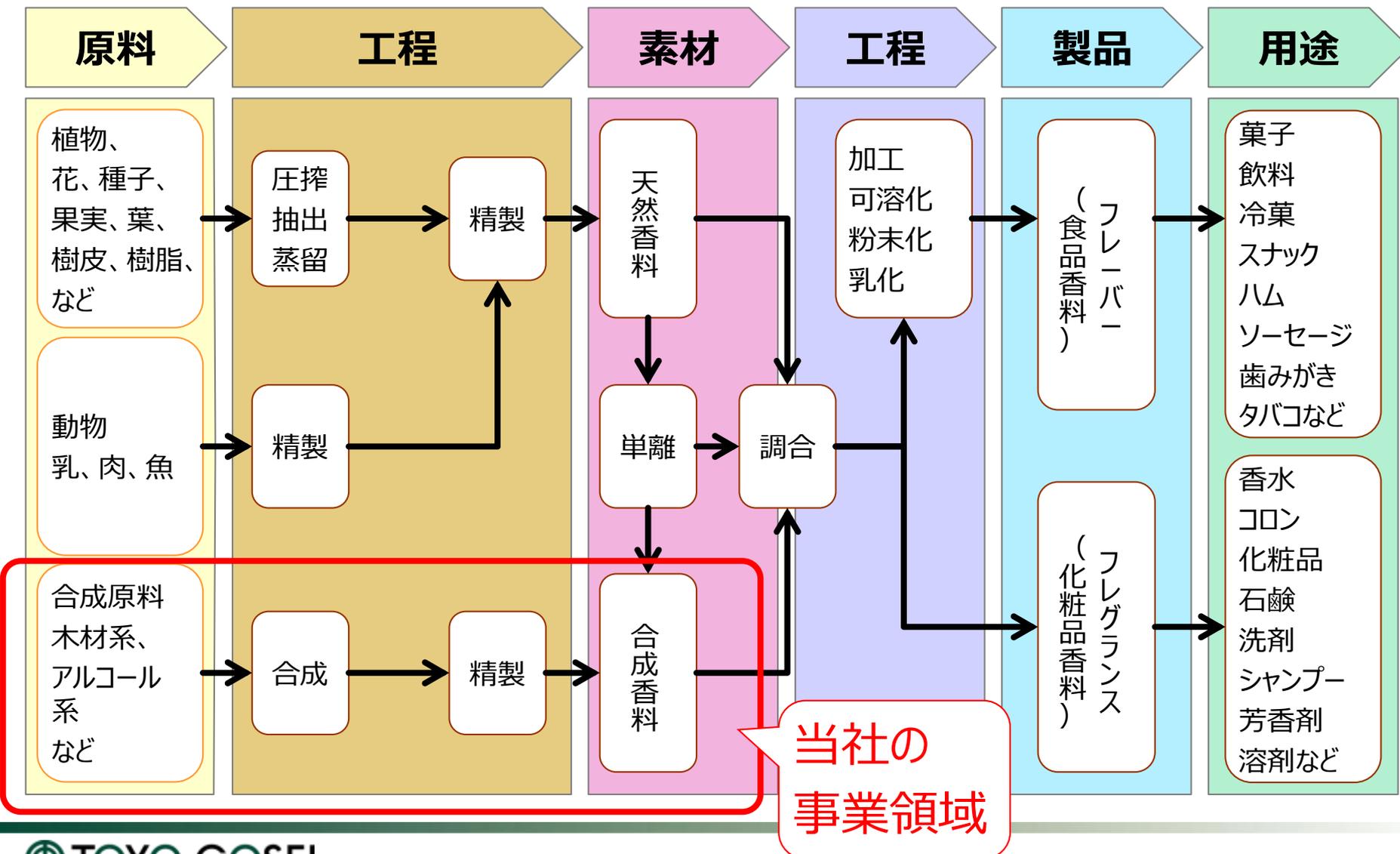
世界香料市場シェア



- 香料市場は、年平均3～4%で安定成長。
- 世界の香料市場は上位6社でシェア70%。
- 大手による中小香料メーカーへのM&Aが活発化しており、寡占化が一層進んでいる。
- 当社は高いシェアを持つ大手海外香料メーカーに香料原料を供給
- 製品別のシェアは30～40%であり、グローバルニッチトップの位置となっている。

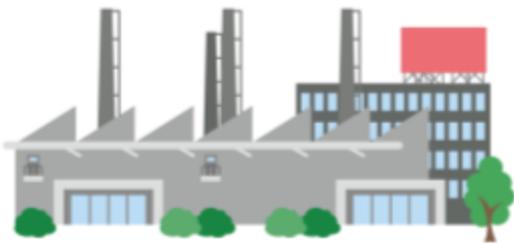
香料のサプライチェーン

- 当社は香料原料のうち、合成香料部分を事業領域としている。



ロジスティック事業のビジネスモデル

化成品



①国内外の化学プラントで製造された化学品をケミカルタンカーで輸送

②到着したタンカーから積荷をタンクへ受け入れ



③万全の品質管理で安全に保管



④保管している化学品をタンクローリーやドラムへ充填



⑤首都圏一円の需要家へ配送



様々な容量、材質、機能を備えた化学品保税タンク計65基を保有



月間70隻の船舶で受け入れ

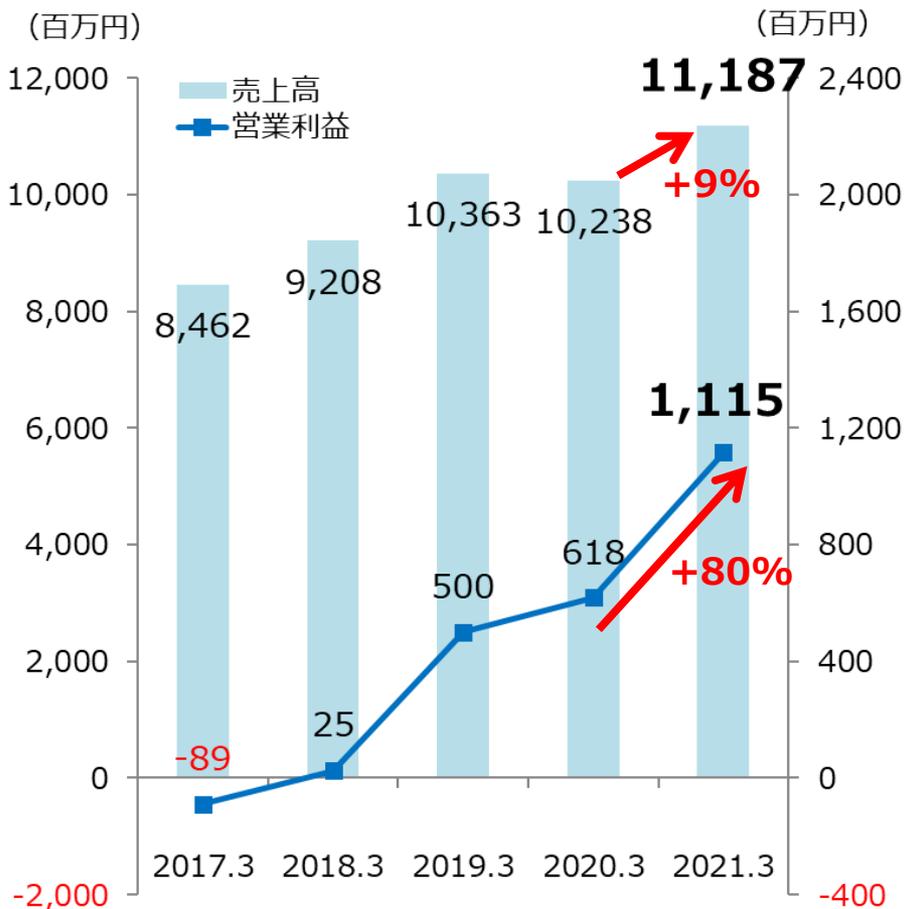


東京湾内最大の荷動き量、
1日100台のローリー出荷を誇る

- 国内外で生産された化学品を首都圏一円へ輸送する一大ハブ拠点。
東京湾内最大級の荷動き量がある。
- 化学メーカーが運営する唯一のケミカルタンクターミナル。あらゆる荷姿に対応し、独自の分析室も完備し、万全の品質管理で幅広い種類の化学品に対応。
- 首都高速の千鳥町ICから数分の好立地。外環道開通により需要家の多い北関東への所要時間が大幅短縮。1日3往復も可能。運転手不足の解消に需要家からのニーズが旺盛で、稼働率が常に高い。
- 消防法の規制により、新規の油槽所建設は難しく、参入障壁が非常に高い。

化成品セグメント

売上高・営業利益



売上高：11,187百万円

(前期比+948百万円、+9%)

- 電子材料が増加、香料材料関連製品は堅調に推移した。
- ケミカルタンクターミナル事業の売上は、上期に化学品の荷動き鈍化により減少したが、現在は回復。

営業利益：1,115百万円

(同+496百万円、+80%)

- 電子材料向け高付加価値製品が拡大。
- 香料材料の販売堅調。
- 過去の先行投資分の一部償却費が減少。

1. 2021年3月期 決算概要

2. 2021年3月期 事業概況

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

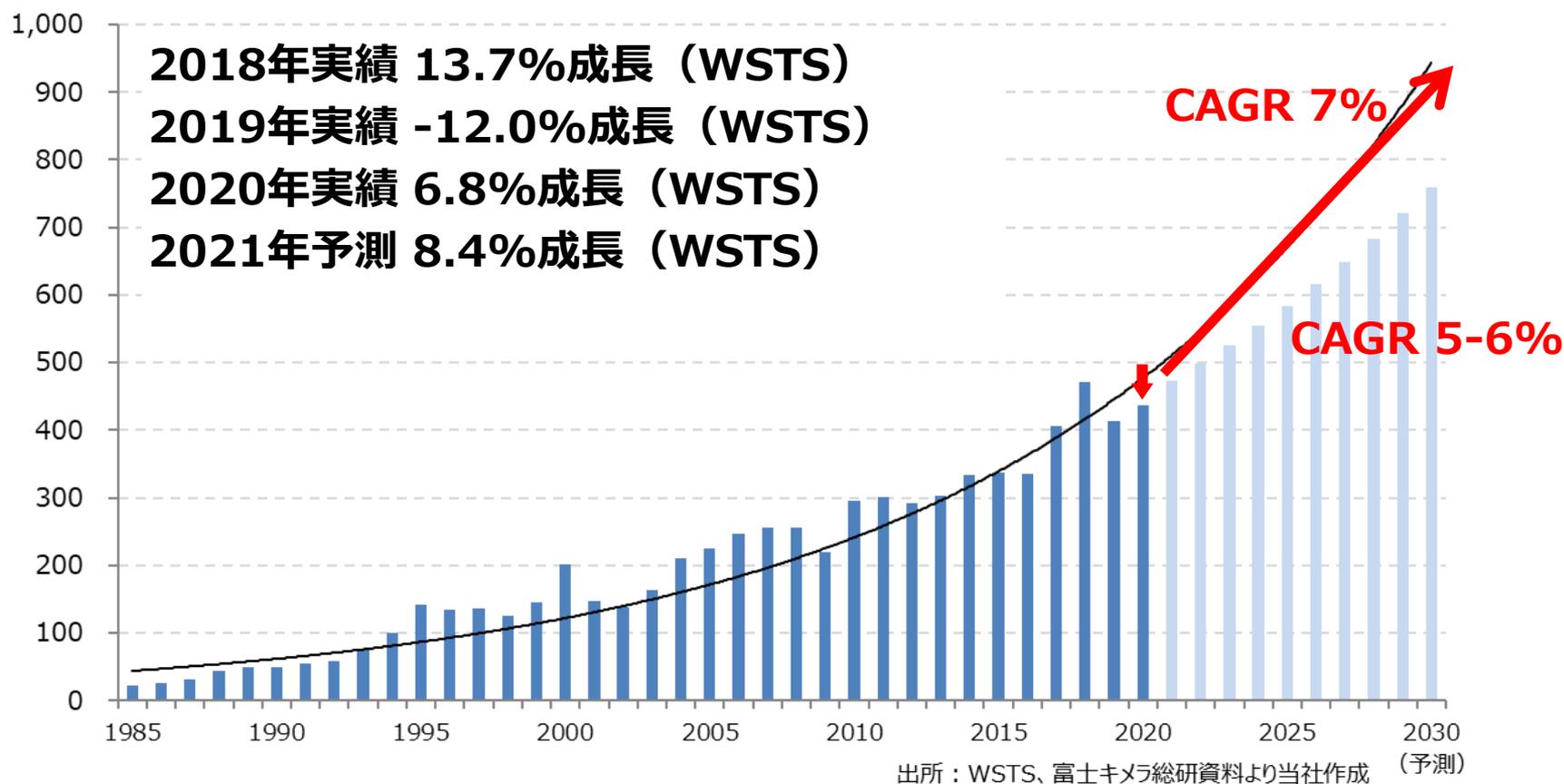
4. 2022年3月期の業績見通し

半導体市場の推移と長期予測

- 1980年代以降、情報化社会の到来により、半導体需要は急拡大。
- 情報通信技術の進展により、2021年→2030年は1.5~2倍程度の成長が予測される。
- 2021年は8~10%の高い成長見込み。

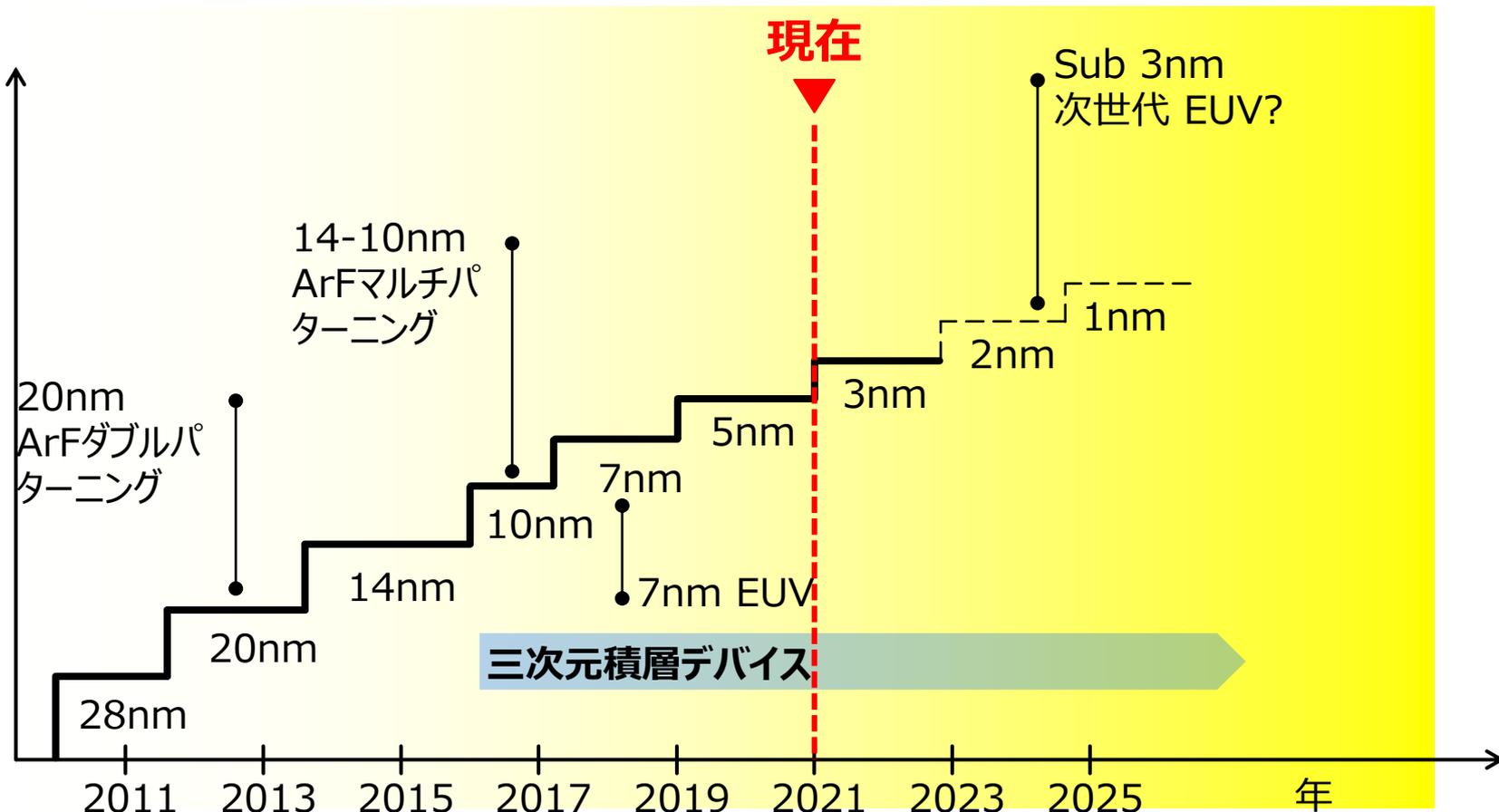
世界半導体売上高

(Billion USD)



光を使った配線の微細化

- 半導体の微細化は継続、現時点では5nmまで量産化。
- 今後2024年に向けて、2nmプロセスまで微細化が検討されている。
- 微細化の進展に合わせ、**高純度溶剤、高純度感光材の需要は拡大**。

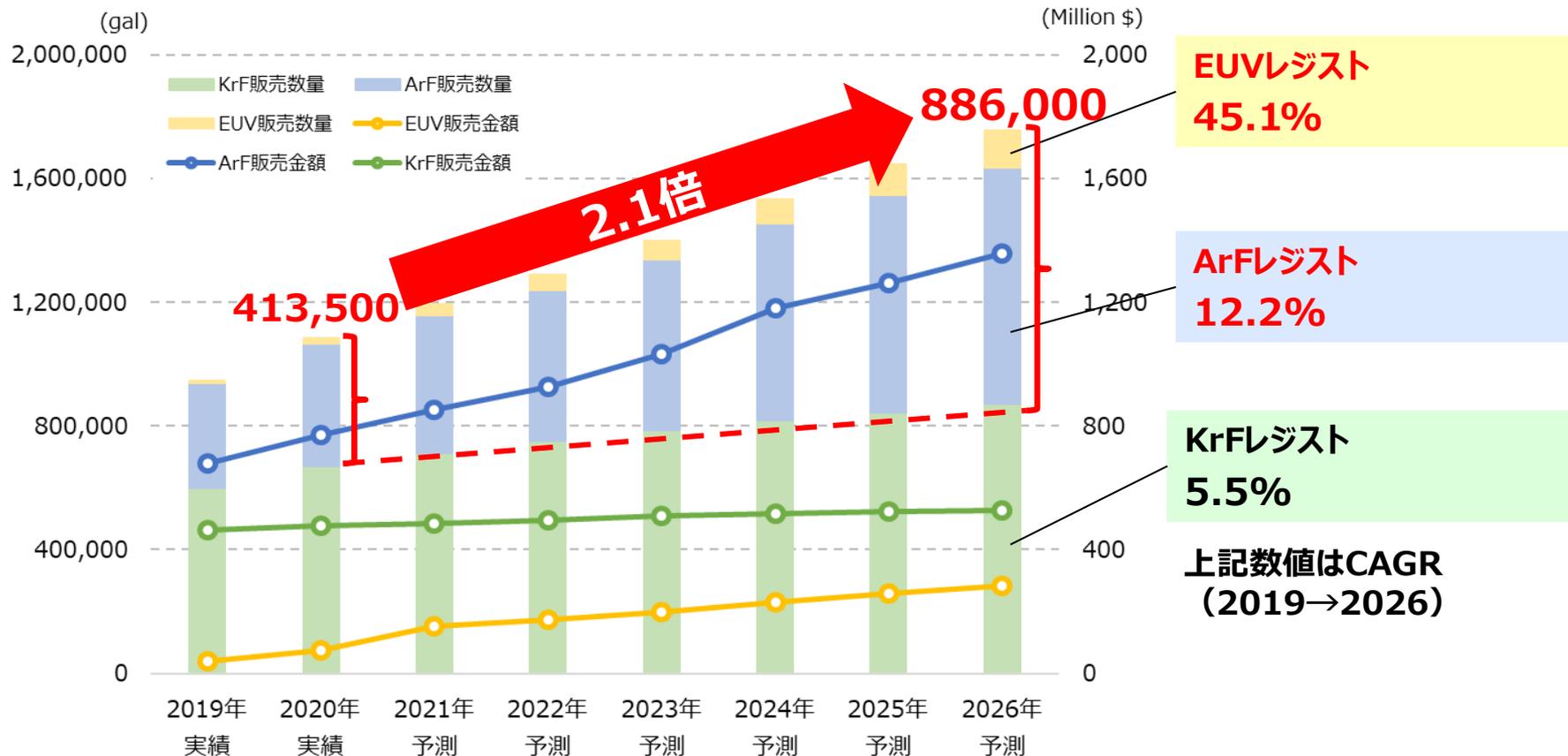


出所：IMEC資料より当社作成

フォトレジスト市場 実績及び予測

- ArF、EUVレジストの需要量は、2020年～2026年に掛けて、2.1倍に拡大見込み。

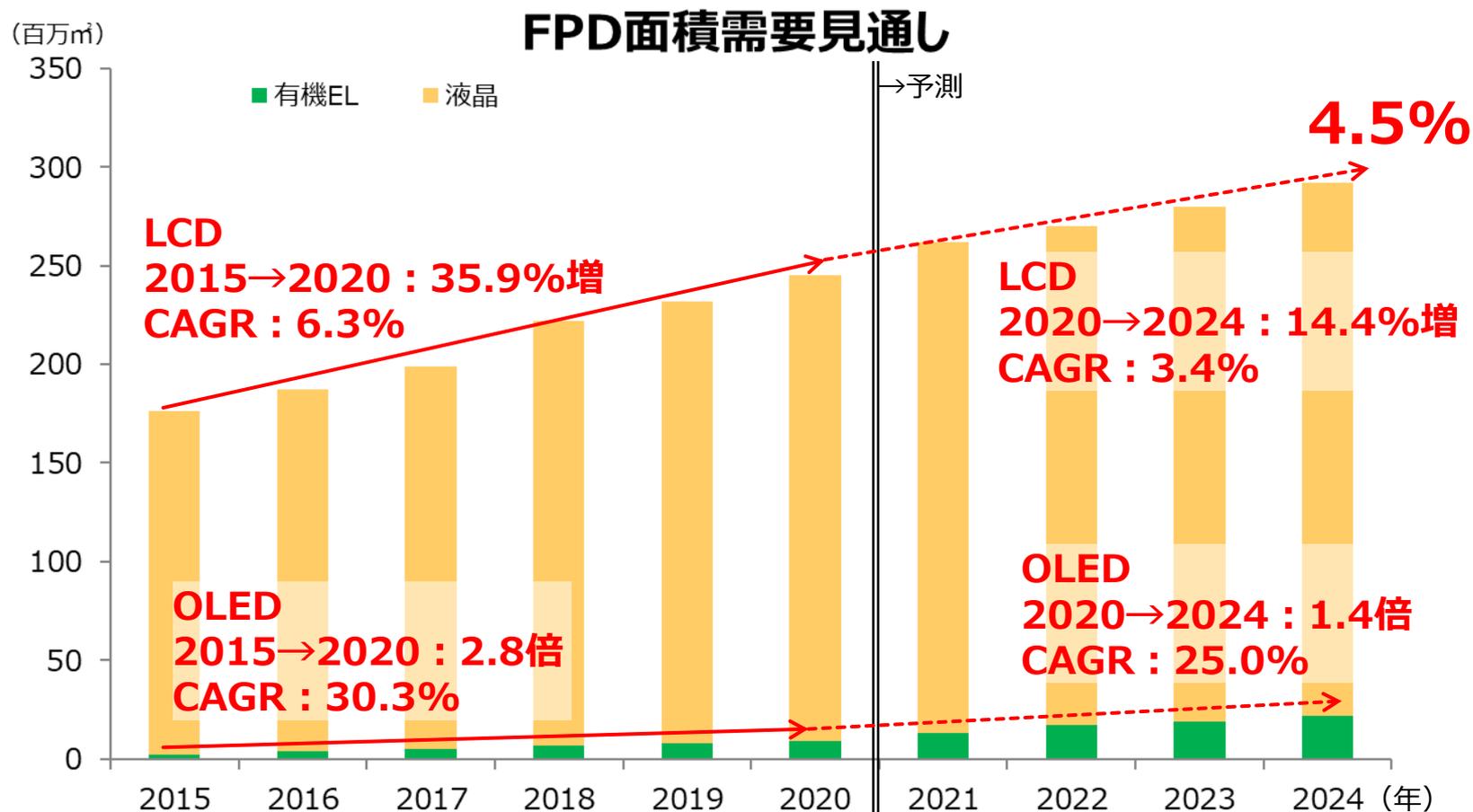
レジスト販売数量と金額



出所：(株)富士経済「2021年光機能材料・製品市場の全貌（2021年3月）」より当社作成

ディスプレイ市場 長期見通し

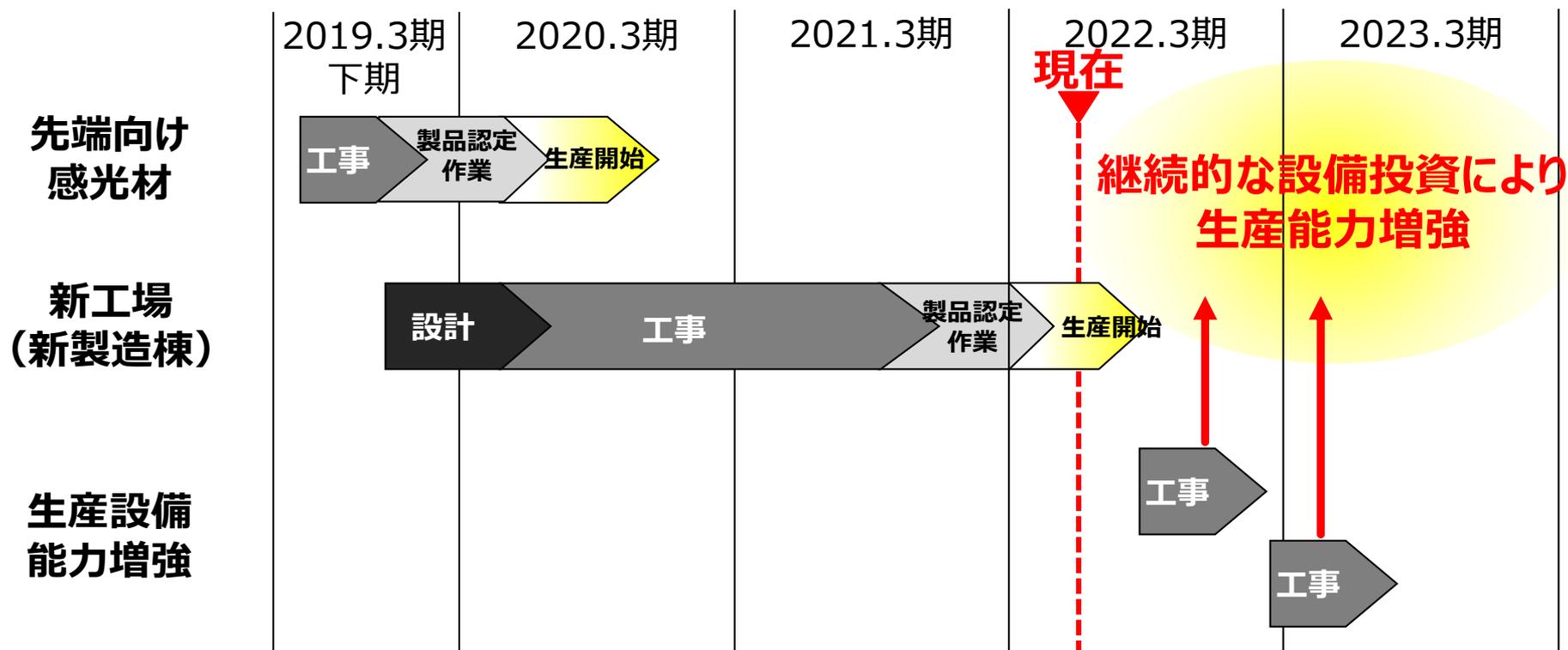
- FPD（フラットパネルディスプレイ）市場は、年率4.5%の緩やかな成長が継続。
- 大型TVやスマートフォンにおける有機EL搭載機種が増加や4K8K等の高精細品の割合が高まっていく見込みから需要は高純度溶剤/感光材は需要拡大見込み。



出所：IHS資料より当社作成

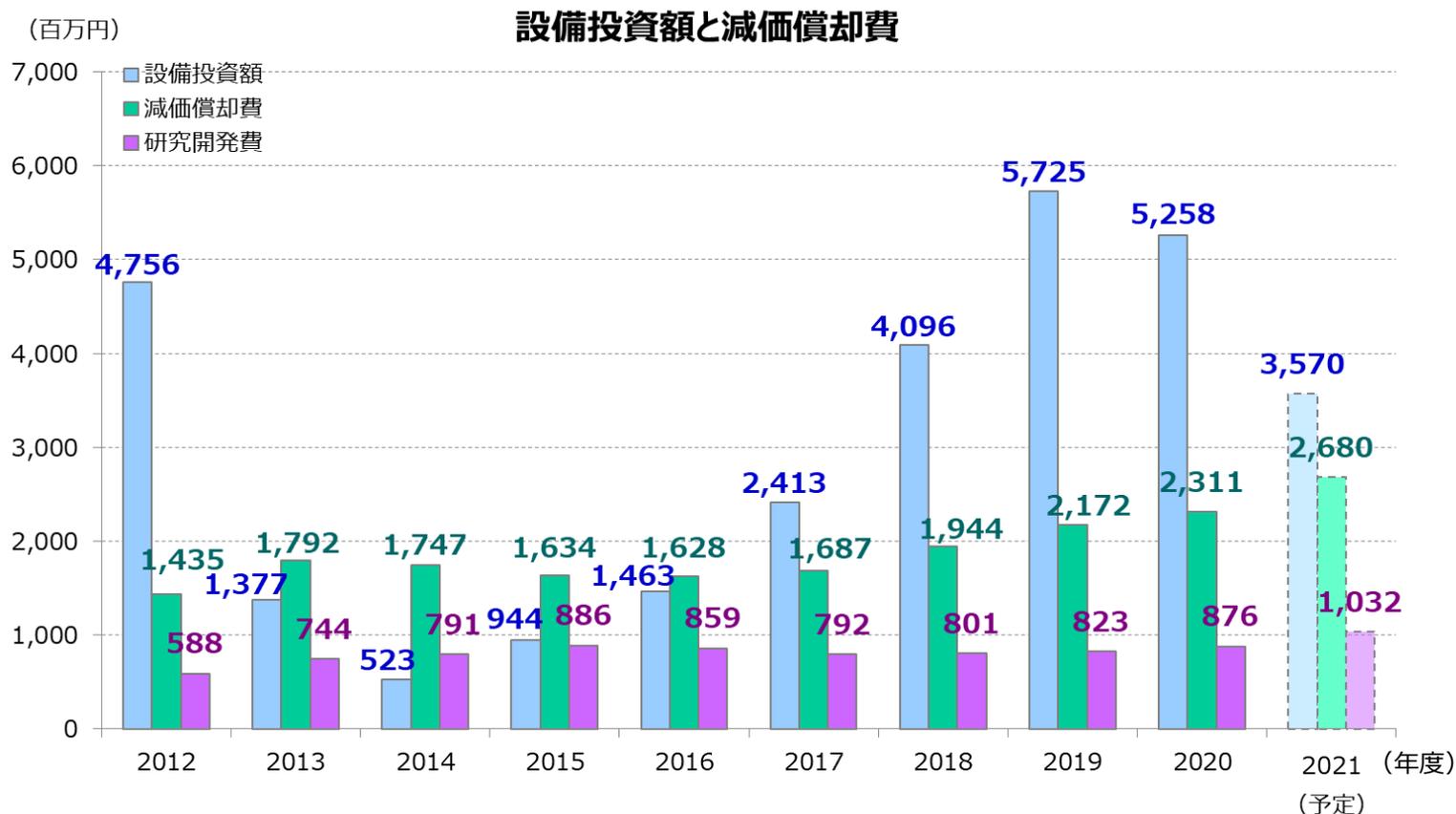
感光材の生産能力増強

- 千葉工場に第4感光材工場が10月18日竣工。
- 今期から生産開始となり、順次稼働率向上を図っていく。
- 既存設備の能力増強も継続実施。



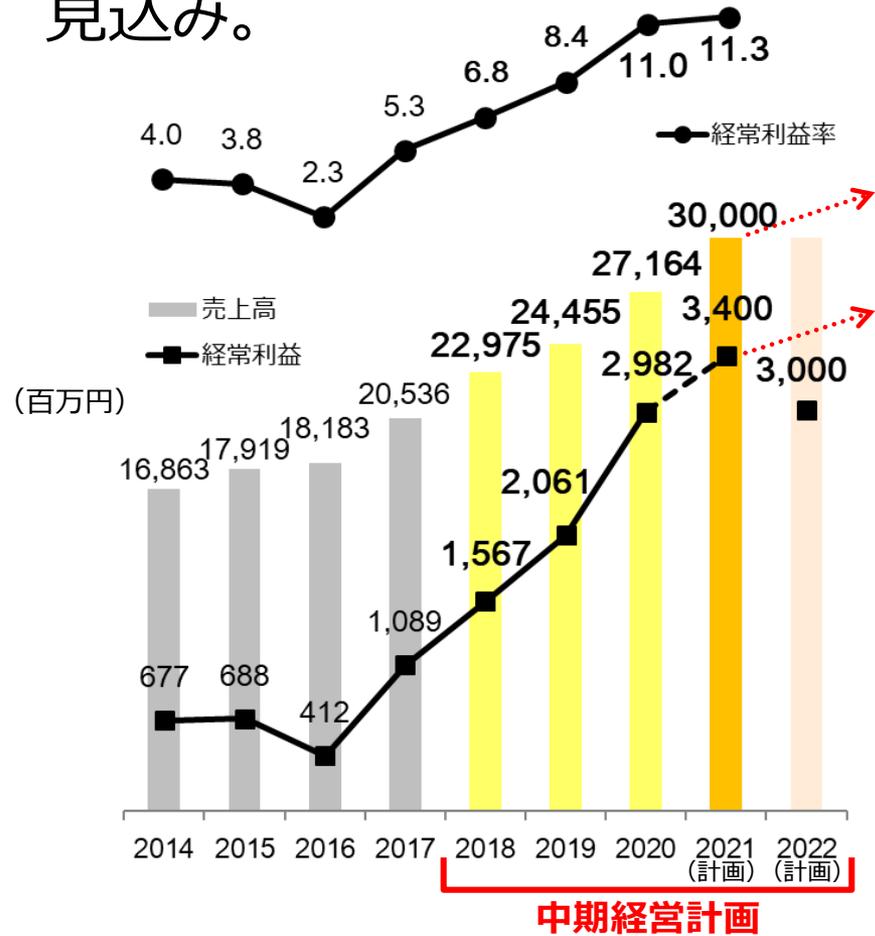
設備投資・減価償却・研究開発の推移

- 電子材料の需要拡大に伴い、2017年度から生産能力増強を継続実施。
- 大型投資は一巡し、2021年度の設備投資は約35億円を計画。今後も継続予定。
- 研究開発は製造技術力強化（分析能力強化、生産性向上、試作設備増強）により+1.5億円を計画。



中期経営計画の進捗

- 電子材料の供給拡大に向けて、設備増強工事も計画通り実施
- 中期経営計画「TGC300：2023年3月期 売上高300億円、経常利益30億円以上、経常利益率10%以上」は、2022年3月期に前倒し達成見込み。



●需要の更なる拡大に対し、供給体制を整えるため、生産能力増強を継続し、更なる企業価値向上に、全社一丸となり取り組んで参ります。

1. 2021年3月期 決算概要

2. 2021年3月期 事業概況

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. 2022年3月期の業績見通し

2022年3月期 業績見通しの背景

■ 外部環境

今年

- 2021年の半導体市場は過去最大（前年比+8%）となる見込み。
- 溶剤需要や、生活必需品であるトイレタリー用途の香料なども、現時点では堅調と予測。

中長期

- 米中政府の通信・半導体分野への政策的支援や通信インフラ投資、データセンターの旺盛な需要により、先端半導体メーカーの設備投資が急拡大。

2022年3月期 業績予想

- 2022年3月期は中期経営計画TGC300を前倒し達成予定（売上高300億円、経常利益30億円以上、経常利益率10%以上）。想定為替レートは ¥105/\$。

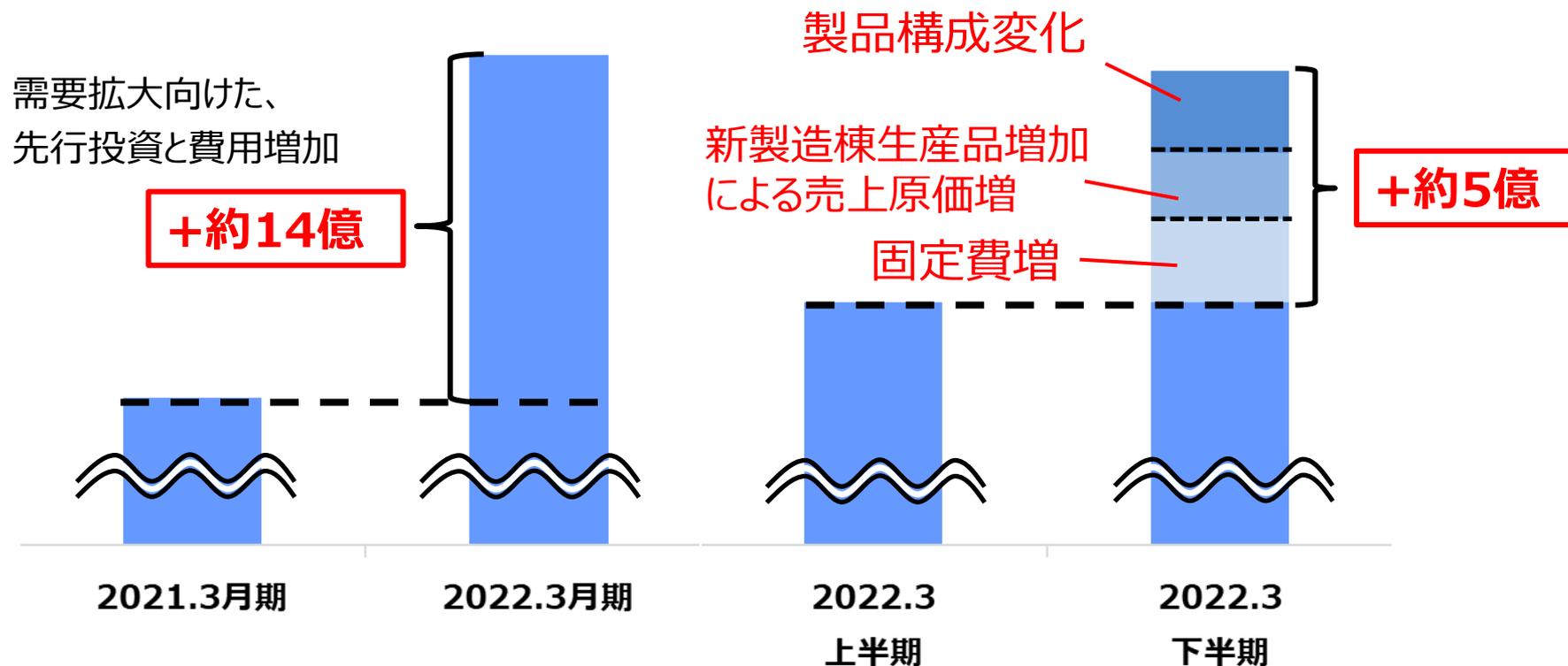
(百万円)	2021.3 通期実績値	2022.3 通期業績予想値	増減額	増減率
売上高 (旧会計基準)	27,164	31,150	3,985	+15%
売上高 (新会計基準※)	—	30,000	—	—
営業利益	2,939	3,550	+610	+21%
経常利益	2,982	3,400	+417	+14%
当期純利益	2,345	2,400	+54	+2%
1株当たり当期純利益	295.57	302.38		
為替レート (USD)	¥110/\$	¥105/\$		

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）を適用するため、業績予想は当該会計基準に基づいた予想となっております。

2021年 vs 2022年 費用比較

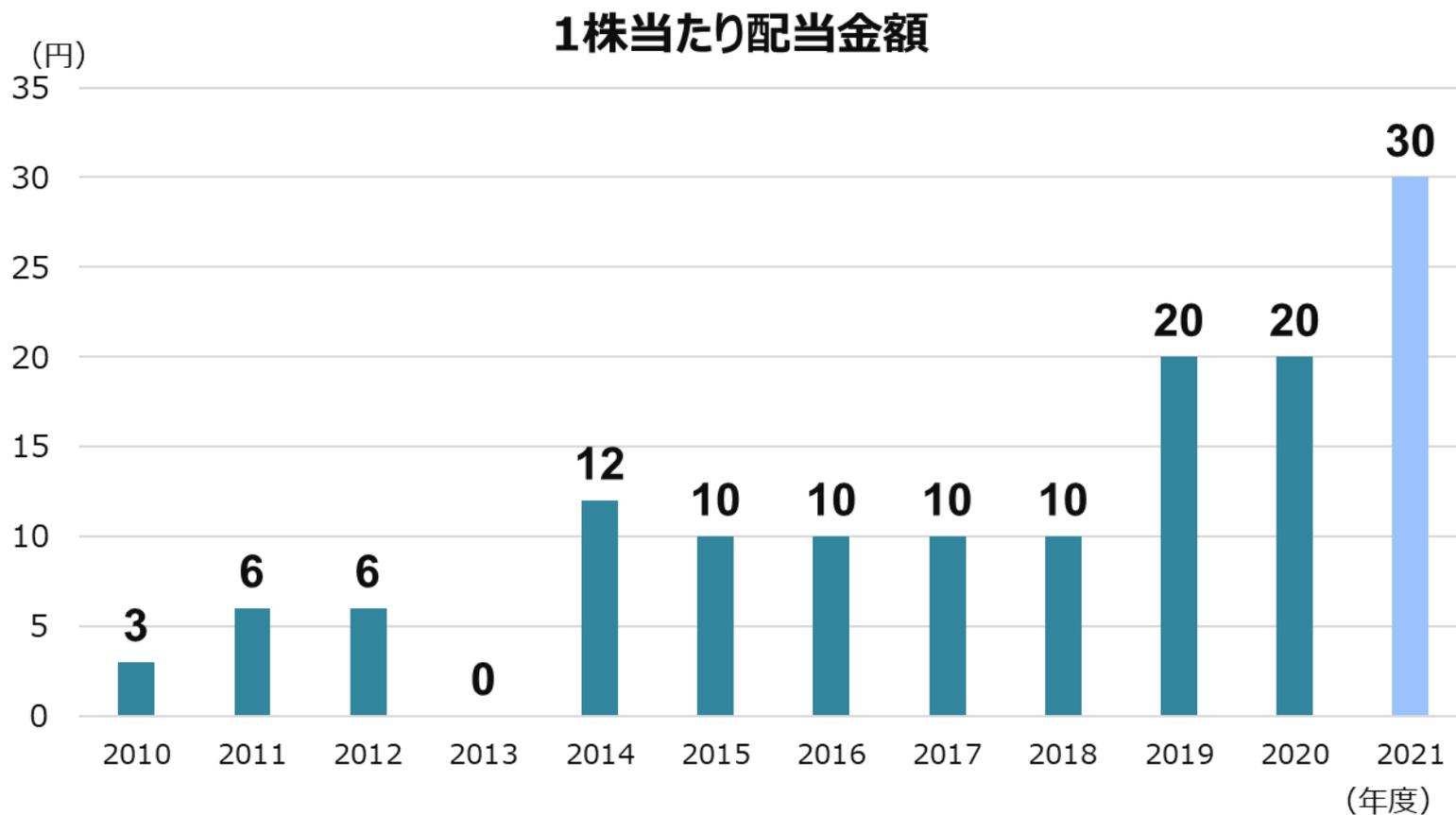
- 2022.3月期通期は、前期比14億円の費用増加。
- さらに、2022.3下期は上期に比べ、約5億円の費用増加見込み。
- 今後の供給拡大に先行投資分を活用。

2022.3月期費用推移イメージ



株主還元

- 2022.3期は、TGC300の前倒し達成を計画し、年間配当30円への増配を計画。
- 安定配当を基本とするものの、成長性、財務バランス等を総合的に勘案し、株主還元方針を決定。



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。